

第8回宗谷管内教育研究大会 猿払・浜頓別・中頓別大会
第47回宗谷複式教育研究大会



猿払村立知来別小学校

令和4年度 猿払村立知来別小学校 学校経営方針

1 本校の教育目標

ふるさとに根ざす心豊かでたくましい子の育成

○強く元気な子

○思いやりのある子

○自ら考える子

(平成23年4月1日改訂)

教育の目的は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行うことにある。

子どもを取り巻く環境は、これからますます変化し、新たな課題に次々と直面していく時代を迎えようとしている。

子どもたちが、このような変化の激しい社会を生き抜くために、今、学校の最重要課題は、子どもたちに「生きる力」を確実に身に付けさせることである。特に小学校段階においては、自立して生きていくための基盤となる「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育むことが強く求められている。

また、豊かな海と恵みの大地をもつふるさと「さるふつ」に誇りと愛情をもって地域との絆を大切にしながら、未来を切り拓いていく人材を育成することも極めて重要である。

そこで、知来別小学校では、以上のことを踏まえ、保護者・地域住民・教職員の願いを受け止め、教育目標を「ふるさとに根ざす心豊かでたくましい子の育成」と設定する。

2 児童と地域の実態

(1) 沿革の概要

明治38年知来別特別教習所としてスタートし、明治40年に知来別尋常小学校として認可を受け、村内で最も歴史ある学校である。平成19年に開校百周年記念式典を行った。

現校舎は昭和58年に竣工した。老朽化が激しくなったため、令和元年度に大規模改修が行われ、教育環境が著しく向上した。

児童数は、昭和20年に最多の208名となるが、昭和30年代後半より減少しはじめ、20名台が続いていた。今後数年間は少しずつ増え、30名前後で推移する見通しである。

(2) 地域の実態

知来別は宗谷管内の沿岸漁業地域として古い歴史がある。一時期は漁業不振で苦しんだ時代もあったが、漁業復興の熱意に燃えた人々の不屈の努力が実を結び、ホタテの稚貝放流を中心とする漁業が大きく発展し、現在に至っている。

学校は、保護者・地域住民の学び舎として愛され、子どもたちのために労力を惜しまない。グラウンドの整備や除雪などの教育環境整備、廃品回収や外国人研修生との交流会、書き初め教室やスキー大会など、保護者や地域住民がよく協力してくれている。

(3) 児童の実態

明るく素直で、休み時間には元気に遊び、学校生活全体に活気があふれている。規範意識や粘り強さ、友だちを思いやる気持ちが向上しているが、コミュニケーション能力に課題がある。

各種少年団活動や、水泳・ピアノなどの習い事など、活動場所が遠方にもかかわらず積極的

に参加している。しかし、村の行事への参加には消極的な傾向が見られる。

学習面では、休日も含めてほぼ全員が家庭で学習し、努力する態度が身についてきている。しかし、家庭学習時間や質、家読に課題がある。標準学力検査等の結果で、全国平均を上回っている児童もみられるが、課題がみられる児童のほうが多い。基礎的な知識・技能の確実な定着と論理的思考力の伸長が課題である。

新体力テスト等の結果では、ほぼ全ての種目において全国平均を超え、俊敏性や柔軟性、筋力に向上がみられるが、走力が課題となっている。

基本的な生活習慣では、休日や長期休業、休漁期に生活リズムが乱れる傾向にあるが、年間を通すと、「はやね・早起き・朝ごはん」は、ほぼ定着している。

テレビやゲーム、パソコン等のメディアの利用では、家庭により偏りはあるが、長時間化の傾向がみられる。

3 経営の方針

本校の教育目標の具現化を図るために、常によりよい教育活動を求め、「学校経営の3つの基盤」、「学校経営の7つの方針」を踏まえ、全教職員の協働体制で学校経営に当たる。

(1) 学校経営の3つの基盤

- ① 揺るぎない 信頼と愛情
- ② 創造性に富む 協調と協働
- ③ 歴史と伝統の 継承と発展

(2) 学校経営の7つの方針

- ① 確かな学力の育成と個性・能力の伸長
- ② 人・自然・社会との関わりを重視した感性、美意識、豊かな心の醸成
- ③ 危険から身を守り、自らを鍛える健康な心身の育成
- ④ 安全で美しく、学習や生活に役立つ教育環境の整備
- ⑤ 職能向上を求め、共に励む研修活動の推進
- ⑥ 教育の共同体として一体感のある家庭・地域との連携
- ⑦ 地域にある学校としての実情に応じた教育活動の推進

4 目指す学校像・教師像・生徒像

(1) 目指す学校像

- ◇子どもたちにとって、「夢」や「希望」がもてる学校
- ◇教職員にとって、やりがいのある学校
- ◇保護者にとって、通わせて安心な学校
- ◇地域住民にとって、誇りに思える学校

(2) 目指す教師像

- ◇わかる授業・楽しい授業づくりのために不断の努力をする教師
- ◇子どもを理解して公平に接し、一人ひとりの可能性を引き出す教師
- ◇学校経営に積極的に参加し、全教職員による協力・協働を追求する教師
- ◇学校・家庭・地域の連携と協働を大切にする教師

(3) 目指す子ども像

- ◇【知】～将来につながる学力を主体的に身に付ける子
- ◇【徳】～周りの人と積極的に心をつなげる子
- ◇【体】～進んで運動に励み、心と体をきたえる子

5 本校の教育課題

4 目指す学校像，教師像，子ども像に係る，各種調査における成果指標を以下のように定め，本校児童の実態，教育課題を以下のように捉えた。

	観 点	数値目標，成果指標（◇），達成値（・）
目指す学校像	子どもたちにとって，「夢」や「希望」がもてる学校	◇全国学力・学習状況調査：正答率70%以上達成！ ・国語 92.9／71.4／57.1 ・算数 100.0／68.8／43.8 ◇全国体力・運動能力，運動習慣等調査：全種目全国平均以上
	教職員にとって，やりがいのある学校	◇（自己評価）子どもの豊かな学びのために，行事の精選と時間の確保など，必要な取り組みを進めている。：肯定的回答100% A=そう思う：0人，B=概ねそう思う：4人，C=あまりそう思わない：0人 D=思わない：1人，E=わからない：0人
	保護者にとって，通わせて安心な学校	◇（保護者アンケート）学校は新型コロナウイルス感染症対策やいじめの早期発見など，子どもたちが安心して学校生活を送ることが出来る学校作りを進めている。：肯定的回答100% A=そう思う：10人，B=概ねそう思う：7人，C=あまりそう思わない：1人 D=思わない：1人，E=わからない：0人
	地域住民にとって，誇りに思える学校	◇（保護者アンケート）学校と家庭と地域が協働し，子どもの成長につながる活動を行っている。：肯定的回答100% A=そう思う：11人，B=概ねそう思う：4人，C=あまりそう思わない：2人 D=思わない：0人，E=わからない：2人
目指す教師像	わかる授業・楽しい授業づくりのために不断的努力をする教師	◇（チャレふり）授業はわかりやすいですか：全員3 3=（とても）：23人，2=（まあまあ）：4人，1=（あまり）：1人
	子どもを理解して公平に接し，一人ひとりの可能性を引き出す教師	◇（チャレふり）8月から今日までで，勉強・運動で「新しくできるようになった」「やる気を持って挑戦した」というものはありますか。：肯定的回答100% 3=（よく）：16人，2=（まあまあ）：11人，1=（あまり）：1人
	学校経営に積極的に参加し，全教職員による協力・協働を追求する教師	◇（自己評価）業務改善と協働作業など，働き方改革に取り組んでいる。：肯定的回答100% A=そう思う：1人，B=概ねそう思う：3人，C=あまりそう思わない：0人 D=思わない：1人，E=わからない：0人
	学校・家庭・地域の連携と協働を大切にする教師	※目指す学校像の地域住民にとって，誇りに思える学校を参照
目指す子ども像	将来につながる学力を主体的に身に付ける子	◇（質問紙）家で自分で計画を立てて勉強していますか。（予習や復習含む）：肯定的回答100% ・よくしている 2名，ときどきしている 1名
	周りの人と積極的に心をつなげる子	◇（チャレふり）行事の取組など，みんなで協力して頑張ることができていますか。：全員3 3=（とても）：22人，2=（まあまあ）：4人，1=（あまり）：2人
	進んで運動に励み，心と体をきたえる子	◇（チャレふり）学校（家）で，自分の健康に注意したり，進んで運動したりしていますか。：肯定的回答100% <学校> 3=（とても）：14人，2=（まあまあ）：12人，1=（あまり）：2人 <家> 3=（とても）：15人，2=（まあまあ）：10人，1=（あまり）：3人

6 本年度の重点目標

「進んで行動し、仲間と高め合う子ども」の育成

＜設定の理由＞

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつある。

このように急激に変化する時代の中、学校教育には、子どもたちが自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

本校においては、へき地・複式・小規模校のよさを活かし、子どもたち一人ひとりが確実に基礎的・基本的な知識・技能を身につけるきめ細かな指導に努めているが、全国学力・学習状況調査や学校評価（自己評価・保護者アンケート）、生徒アンケート（チャレンジふりかえり）等の調査結果から、次のような課題を捉えた。

- 読解力が低く、思考・判断・表現や事象を数理的に捉え・考察する力、処理する技能に影響を与え、基礎的学力定着の課題となっている。
- 全国学力・学習状況調査において、全ての教科で全国平均を上回る一方、学力差が大きい。同様の状況が家庭学習の状況にも現れている。
- 子どもたち一人ひとりに達成感・成就感を体得させ、主体的に取り組む意欲を高める指導方法の開発と指導技術の向上が必要。
- 集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋することを通じ一人ひとりの資質や能力を伸ばす活動、経験の場を創出・工夫していくことが必要。

以上を踏まえ、今年度の重点目標を『「進んで行動し、仲間と高め合う子ども」の育成』と定め、以下の経営の重点、指導の重点を策定し、学校・家庭・地域が一体にチーム知来別として教育活動を推進して行くこととした。

7 経営の重点 ※（ ）は主たる担当、■は重点において特に重きをおく内容。

（1）教職員の活力、組織力を高める学校経営の推進（教頭）

- ①教職員の特性や経験を生かした校内組織の機能化と協働体制の確立
- ②仕事への意欲を支える教職員のメンタルヘルスの推進
- ③保護者・地域住民の参画による学校運営の推進
- ④コンプライアンス確立の取組の推進

（2）生きる力を育む教育課程の編成・改善（教務）

- ①「社会に開かれた教育課程」の実現
- ②教科横断的視点からの教育課程の編成・実施
- ③へき地・複式・小規模校である知来別らしさを生かした教育課程の編成・実施
- ④教育課程の評価・改善を図るPDCAサイクルの確立

（3）自己効力感を高める学年・学級経営の充実（学年）

- ①よさを認めて可能性を広げ、自己肯定感・自己有用感を高める学級風土の醸成
- ②望ましい人間関係の確立を図り、一人ひとりのよさを引き出す学級経営の推進

③学習や学校生活向上の意欲が高まる教室環境の整備

④保護者とのコミュニケーションを大切にしたい心通わせる学級経営の推進

(4) 学びの質を高める研修活動の推進（教務）

①日常の授業実践にすぐに生かせる校内研修の推進

②授業力・教師力を高める校内研修の推進

③個々のキャリアに応じた研修会・研究会への積極的参加の奨励

(5) 心とむ教育環境の整備（学年・教頭）

①温かい人間関係を醸成する言語活動の工夫

②子どもの成長や学級の見え方見える掲示物の工夫

③やさしい言葉が飛び交い笑顔があふれる人的環境の充実

④施設・設備、敷地内の教育環境の整備・充実

(6) ふるさとに根ざす家庭・地域との連携（教頭・教務）

①学校運営協議会の機能を生かした連携体制の確立

②地域に根ざす学校としての情報発信の充実

③地域の教育力を生かした教育活動の推進

④近隣小・中学校、自治会、行政など関係機関との連携の強化

(7) 安心・安全を確立する危機管理の徹底（教頭・指導）

①安全教育と安全管理の徹底による事故の未然防止

②危機管理意識の高揚と報・連・相の徹底

③事故・トラブル発生時の「危機管理マニュアル」に基づく迅速・誠実な組織的な対応

④危機管理における家庭・地域・関係機関との連携の強化

(8) 教職人生を豊かにする働き方改革の推進（教頭）

①「猿払村アクション・プラン」に基づく「働き方改革」の推進

②勤務時間・休憩時間の管理の徹底とワークライフバランスを意識した働き方の推進

③変形労働時間制の活用及び振替の徹底

④定時退勤日、学校閉庁日の設定

⑤分掌業務、学年・学級事務の見直しと学校行事の精選

⑥地域との協働の推進による学校を応援・支援する体制づくり

8 指導の重点 ※ は重点において特に重きをおく内容。

(1) 確かな学力を育む学習指導

①学ぶ意欲や主体的に学習に取り組む態度を育てるため、学習指導を充実する。

②基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるため、学習指導を工夫する。

③思考力・判断力・表現力を育むため、学び合いの場面を充実する。

④少人数のよさを生かすため、学習過程を工夫する。

⑤「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業改善を推進する。

⑥児童の学習・生活習慣を改善するため、評価を工夫する。

⑦指導計画や指導方法の改善に生かすため、学習評価を工夫する。

(2) 豊かな心を育てる道徳教育

①豊かな心を育てるため、全教育活動を通して行う道徳教育を充実させる。

②書く活動や話し合い活動、体験的な活動を取り入れるなど道徳指導を工夫する。

③教師の授業力の向上のため、道徳の授業公開を推進する。

④地域の教育力を生かすため、学びの環境づくりに取り組む。

(3) 規範意識を高め、集団の中で自己実現する意欲・態度を育てる生徒指導

- ①児童の自己実現のため、共感的な理解に基づく児童理解の深化を図る。
- ②心身の健全な発達の実現のため、基本的な生活習慣や社会性・集団性を育成する。
- ③日常的な教育相談の実施、いじめ問題等の未然防止・早期発見、組織的な対応に取り組む。
- ④児童の自己実現のため、家庭・地域・関係機関と連携した指導を充実する。

(4) 生命を尊び、自ら心身を鍛える体育・健康指導

- ①体力向上のために、体力、運動能力調査の結果を基に体育の授業の改善に取り組む。
- ②体力向上のために、計画的、積極的な遊びや体育的活動を推進する。
- ③心身の健全な発達のため、より良い生活習慣の形成を図る保健指導を充実する。
- ④心身の健全な発達のため、性教育、食育の計画的な実践に取り組む。
- ⑤体力向上のために、家庭・地域と連携した体力づくりを推進する。

(5) 自主性や責任感を育てる特別活動

- ①望ましい人間関係を形成する力を育成するため、特別活動の充実に取り組む。
- ②自主的、実践的な態度を育てるため、集団活動の充実に取り組む。
- ③体験的活動における、振り返り、まとめ、発表しあう活動の充実に取り組む。
- ④学ぶことと自己の将来とのつながりを見通し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につける、キャリア教育の充実に努める。

(6) 自ら学び、自ら考え、問題を解決する力を育てる総合的な学習の時間

- ①身に付けさせたい力を明確にした計画と指導の充実に取り組む。
- ②自らの考えをもち、体験活動を通して問題解決に取り組む学習展開の工夫を図る。
- ③他教科・領域との関連を重視した教科横断的指導を充実する。
- ④地域の教育力を生かした指導の工夫に努める。

(7) グローバル化に対応したコミュニケーション能力を育てる外国語・外国語活動

- ①コミュニケーション能力の育成のため、ALTや外国語活動巡回指導教員、教育機器を有効に活用した活動を充実する。
- ②コミュニケーション能力の育成のため、体験的な活動を位置付けた指導の工夫に取り組む。

(8) 情報活用能力を育むICT活用

- ①プログラミング的思考を育むため、指導の充実に取り組む。
- ②将来の社会で活躍できる力を育成するため、コンピュータを上手に活用して身近な課題を解決するなどの態度を育む指導を充実する。
- ③各教科等の学びを確実なものにするため、ICTを活用した指導を工夫する。

(9) 一人一人の正確な実態把握に基づくインクルーシブ教育

- ①一人一人の教育的ニーズに応じるため、指導計画と支援体制を確立する。
- ②一人一人の教育的ニーズに応じるため、保護者との共通理解に基づく支援体制の計画的な推進に取り組む。
- ③個に応じた指導の充実を図るため、コーディネーターを核として校内委員会の機能化と関係機関、専門機関との連携を強化する。
- ④児童の「生きる力」を確実に育むため、障害の程度や学級の実態を考慮した教育課程を編成する。

9 学期の重点

節	重 点
1 学期	◇集団の基盤づくり ・学級や縦割り班におけるルールづくり，リーダー・フォロワーの養成等，集団の基盤づくり ・運動会の成功を目指し，体育的な活動に協力して取り組む喜びを味わわせる集団づくり ◇学習習慣・学習技能の定着 ・学習規律を定着させる学習集団づくり，家庭学習の習慣化 ・学ぶ意欲や主体的に取り組む態度の育成 ・学習内容の確実な定着を図るための，課題把握の仕方，課題解決の方法（個人で，集団で），学び合い，発表，振り返り等の学習過程の定着 ・学習内容の確実な定着を図るノートづくり ◇教室環境の整備 ・落ち着いて学習できる場としての教育環境の整備 ☆学校評価 中間評価（自己評価，児童・保護者アンケート）
2 学期	◇創造性豊かな学びと集団としての高まりづくり ・学芸会の成功を目指し，文化的なものを協力して創りあげる喜びを味わわせる集団の高まりづくり ・体験的学習や地域学習により，学習への興味・関心の高まりづくり ◇学びの質の向上，学ぶ喜びの体感 ・問題や学習課題を正確に読み取る読解力の育成 ・個人思考，集団思考（学び合い），振り返りによる学習の深まりづくり ・コミュニケーション能力を高める言語活動の推進 ・学習内容の確実な定着を図るノートづくり ☆学校評価 年度末評価（自己評価，児童・保護者アンケート）
3 学期	◇1 年間のまとめと次年度への意欲化 ・1 年間の学習のまとめと総復習による基礎学力の定着 ・1 年の振り返りと，進級や進学への意欲化



学校教育目標

「ふるさとに根ざす心豊かでたくましい子の育成」

強く元気な子 思いやりのある子 自ら考える子

＜目指す子ども像＞

- 将来につながる学力を主体的に身に付ける子
- 周りの人と積極的に心をつなげる子
- 進んで運動に励み、心と体を鍛える子

＜目指す学校像＞

- 子どもたちにとって、「夢」や「希望」がもてる学校
- 教職員にとってやりがいのある学校
- 保護者にとって、通わせて安心な学校
- 地域住民にとって、誇りに思える学校

＜目指す教師像＞

- わかる授業・楽しい授業づくりのために不断の努力をする教師
- 子どもを理解して公平に接し、一人ひとりの可能性を引き出す教師
- 学校経営に積極的に参加し、全教職員による協力・協働を追求する教師
- 学校・家庭・地域の連携と協働を大切にする教師

今年度の重点目標

「進んで行動し、仲間と高め合う子ども」の育成

豊かな人間性

★ 周りの人と積極的に心をつなげ、思いやりや感謝の心を持つ子の育成

- ① 全教育活動を通し行う道徳教育の充実
- ② 特別の教科道徳の指導の工夫
- ③ 地域の教育力を生かした学びの環境づくり

- ・ 読書活動の推進
- ・ 縦割り班活動の推進
- ・ 教育相談やいじめアンケート等による、いじめの未然防止と早期発見・早期対応
- ・ 学級活動・児童会活動の充実
- ・ 特別の教科道徳の全学級公開
- ・ ふるさと学習（さけの一生、漁業土授業、給食感謝の集い、地域調べなど）の充実

健康・体力

★ すすんで運動に励み、心と体を鍛える子の育成

- ① 体力・運動能力調査の結果を基にした体育授業の改善
- ② 計画的、積極的な遊びや体育的活動の推進
- ③ より良い生活習慣の形成を図る保健指導の充実
- ④ 性教育、食育の計画的実践
- ⑤ 家庭・地域と連携した体力づくりの推進

- ・ 運動会、マラソン大会、スキー大会など体育的行事の計画的実施
- ・ 中休みを活用した体力向上の取組（PUT）の推進
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査など各種調査結果に基づく体育授業の改善
- ・ 生活リズム調査（「元気いっぱい」）の結果に基づく家庭との連携

確かな学力

★ 将来につながる学力を主体的に身につける子の育成

- ① 学ぶ意欲や主体的に取り組む態度を育てる学習指導の充実
- ② 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける学習指導の工夫
- ③ 思考力・判断力・表現力を育む、学び合いの充実
- ④ 少人数のよさを活かす学習過程の工夫
- ⑤ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ⑥ 学習・生活習慣を改善する評価の工夫
- ⑦ 指導計画や指導方法の改善に活かす学習評価の工夫

- ・ 全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、学校評価など各種調査の結果に基づく授業改善
- ・ 授業改善シートを活用した授業力向上
- ・ 学習支援員、管理職による支援体制の充実
- ・ 「やる気ッス」による基礎学力の定着

確かな学年・学級経営

- よさを認め、可能性を広げ、自己肯定感・自己有用感を高める学級風土の醸成
- 望ましい人間関係を確立し、一人ひとりのよさを引き出す学級経営の推進
- 学習や学校生活への向上意欲が高まる教室環境の整備
- 保護者とのコミュニケーションを大切に心通わせる学級経営の推進

学校・家庭・地域との連携・協働、「チーム知来別」としての質の高い教育の推進

○組織の機能化、協働体制の確立 ○校内研修の充実 ○家庭・地域との連携 ○働き方改革

働き方改革・効果的な教育活動の推進

- 「猿払村アクションプラン」に基づく「働き方改革」の推進
- 業務、学校行事の見直しと精選
- ICTの活用など、授業力・教師力を高める校内研修の推進
- キャリアステージに応じた研修会・研究会への参加推奨
- カリキュラム・マネジメントの充実

保護者・地域住民の参画による学校運営の推進

- 学校運営協議会の機能を生かした連携体制の確立
- 学校だより・学級通信等による情報発信の充実
- 「社会に開かれた教育課程」の実現
- 地域の教育力を活かした教育活動の推進
- 近隣小・中学校、自治会など関係機関との連携強化

《学校教育目標》ふるさとに根ざす 心豊かでたくましい子の育成
 ○強く元気な子 ○思いやりのある子 ○自ら考える子

知の研究

研究主題

自分で問題解決ができる子どもの育成 ～算数科における「読解力」を意識した授業づくり～

研究仮説①『主体性』

時間ごとの課題やまとめを児童自身に明確にさせることで、児童が主体的に学ぶ力を育てることができるだろう。

研究仮説②『言語活動の充実』

算数用語を用いて筋道を立てて確認・説明する活動を繰り返し取り入れることで、児童に事象を数理的に捉え、説明する力を育てることができるだろう。

研究仮説③『学び合い・個の支援』

少人数学級・複式学級であることを生かし、個に応じた学習や、学び合いの工夫を行うことで、児童一人一人が学習しやすい環境を整えることができるだろう。

目指す姿に近づくための手立て（考えられる例。新たな手立ても含め、研究する。）

仮説①に対する手立て

- ・前学年（前単元）と次学年（次単元）の学習内容から本単元の学習内容を確認し、明確化させる。
- ・単元計画を確認したり、既習事項との違いを比べたりすることを通して、児童自身に本時の学習内容を明確化させる。
- ・問題を工夫することで、児童に本時の課題や活動に取り組ませやすくする。
- ・課題に正対したまとめを児童自身に考えさせ、学んだ内容を明確化させる。

仮説②に対する手立て

- ・前学年（前単元）、本単元、次学年（次単元）で学ぶべき算数用語と公式、図（線分図など）を確認し、明確化する。
- ・問い返しを用い、算数用語を用いて確認・説明する活動を繰り返し行うことを通して、筋道を立てて説明する力をつける。
- ・説明をする（書く）際、必要となる算数用語を全体で確認してから活動することで、算数用語を活用した説明を行う力をつける。

仮説③に対する手立て

- ・単元に入る前にレディネステストを行い、個々の学習の定着具合を確認する。
- ・学び合いの目的、方法、対象などを児童にわかる工夫（図示など）を行い、児童が活動を進めやすくする。
- ・考えを組み立てる際に使う情報を、これまでのノートや掲示物、タブレットなどを用い、児童が活用できるようにする。
- ・ＴＴや支援員、ヒントカードなどを活用する。

目指す姿に近づいているか検証する方法

仮説①に対する検証

- 『本時の内容にあった活動・まとめになっているか。』
- ・振り返りの内容
 - ・児童による、課題やまとめの立て方。
 - ・自己評価アンケート

仮説②に対する検証

- 『算数用語を用い、筋道を立てて説明することができているか。』
- ・ＣテストやＳサポート等の記述問題の解答傾向
 - ・単元テスト思判表問題

仮説③に対する検証

- 『児童にとって、算数の活動が進めやすくなっているか。』
- ・児童アンケートの実施
 - ・授業の児童の見取り
 - ・日常の学び合いの様子

これらの検証に加え、公開授業を含めた授業研究を進め、定期的（学期ごと）に研究を振り返る。

目指す子ども像

・将来につながる学力を主体的に身に付ける子

・周りの人と積極的に心をつなげる子